

## 日本国をのあり方を考える。

平成 23 年 3 月 11 日 HS

菅総理が「第3の開国」をすると言っているが、あんな「ぬる菅酒」にそんな大業ができるはずがないと疑問を抱き、**第1の開国（明治維新）と第2の開国（戦後復興）**はどのような状況でできたのかと調べました。第1の開国の明治維新に関しては、司馬遼太郎の「坂の上の雲」と「酔って候」から感得しました。

幕末から明治維新に何らかの影響が見える殿さまは「4賢候」と言われる「土佐藩の殿様の山内容堂・薩摩藩の殿様の島津久光・宇和島藩の伊達宗城・肥前藩の鍋島閑叟」だけです。

他の諸藩の殿様などは何の抵抗もしないで、殿様の地位から引きずりおろされたのです。

じゃ、誰が維新をリードしたのか？それはそれら4藩の下級武士（西郷隆盛・木戸孝允・坂本竜馬など）なのです。

そしてそれが内乱にもならず静々となされたポイントは日本には「**万世一系の天皇家**」があったからです。

そして「**ペリーという外圧**」があり、それに対して、当時は世界をまったく知らない弱小国の日本が、植民地にならず、毅然と抗して、迅速に舵を切り瞬く間に近代国家になったのは、日本国民すべて（幕府・各地の殿

様・武士・農民・工人・商人)が「**天皇家**」を中心に一つにまとまったからだと思いました。

そして**第2の開国の戦後復興**も、それまでの似非殿様の軍閥や財閥が抜けて、それまで目を見なかった庶民の若者や女性によって、何の混乱もなく静々と復興がなされたのだと思います。

そしてそこには「**敗戦という外圧**」があり、国民が一つにまとめられる「**天皇家**」があったからだと思います。

それと比較して今の日本の政治を見たらもう可能性は全くないと感じとれます。

各政党とも似非殿様がうようよしていて、若者が素直に頭を上げることができない状態です。

菅総理も小沢も谷垣も他の政党党首も皆似非殿様です。

そして**TPPを第3の開国**などと恥ずかしさもなく言う菅総理もそれに何の気概もなく「今の人気取りだけ」であり、TPPに反対する政治家もただ農家の票が欲しいだけなのだと思います。

現実には、菅直人が総理大臣になった平成22年6月の所信演説で「**第3の開国**」と言って以来9カ月、菅総理から「**第3の開国**」という言葉は一度も出たことはありません。

ほんとうに日本の未来と農家のためを考えるなら、日本人は必ず両立の策を發明できるはずでず。

今の政治は呑氣に自分の立場だけを考えて非国民のような政治家だけなんです。

そんな策を何も發明できなくて第3の開国とかそれに反対などという今の政治家が消えていくべきなのです。

日本は今こそ、民主も、自民も世界に恥ずかしい子供喧嘩のような国会運営をしないで、今が日本の歴史最大の危機であることをしっかりと認識して「**天皇家を御旗**」にまとまって国政を行うべき時だと思ひます。

チュニジアの革命もその後は何の情報もありません。

エジプトも革命後どうなったかの情報もありません。

リビアも、カダフィが頑張りとおしてはいますが、持ちこたえられるはずがありません。

それぞれに、革命らしきものが起こるでしょうが、スグに内乱になるはずだと思ひます。

なぜなら、それらの国には「公平無私万世一系の天皇家に相当する神」がありませんから、必ずまた**独裁政治が跋扈**すると思ひます。

しかし、日本はそんな国を他人事に見ている時ではありません。

そんな国の混乱は今後、日本国にもものすごい困難をもたらせるはずです。

たぶんこれからは国際的に、**資源や食料品をめぐる地球規模の「覇権主義の戦い」**が起こるはずです。

日本にこそ、日本国民団結した**「富国強兵」**を毅然と推進するリーダーの出現を期待したいと思います。